

平成26年度 新潟県小学校教育研究会 学習指導改善調査研究事業
協力校としての取組

阿賀野市立赤坂小学校

1 昨年度の結果と今年度の目指す子どもの姿

- ・昨年度の学習指導改善調査は、どの学年も県平均を上回ったのは1ないし2教科という結果であった。「かき表す」ための根幹となる、語彙力及び言葉の理解、文章を読み取る力が弱いことが分かった。特に、読み取りでは、問題の条件や資料の表すことを正しく読み取る力が弱いことが分かった。
- ・今年度目指す子どもの姿は、以下の通りである。

○基礎的・基本的な学習内容を身につけ、関わり合いながら自分の考えを高めていく子ども。

【数値目標】

- ①国語の単元テストで、個人の平均点が全国平均点を超える児童の割合が75%以上になる。
- ②学校生活アンケートで「勉強が分かる」と答える子どもが90%以上になる。
- ③家庭学習強調週間の期間中、テレビを消して「学年×10分以上」の家庭学習をしている子どもが75%以上になる。

2 取組の概要

①校内研究との関わりにおいて

- ・今年度の研究主題は次の通りである。

読み取る力を付ける指導のあり方

↓ そのために

- ・国語の説明的な文章単元において、正しく読み取る力を付けるための授業改善に取り組む。
→「音読」「意味調べ」「文章や筆者の意図の正しい理解」の3つの学習活動に重点をおいて単元の構成をする。
- ・言語環境の整備
→赤坂スキル（より良い学習活動を行うための言語活動の「方法」や「技能」のスキル）の活用と、図書館教育との連携を中心に行う。
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組む。
- ・メディアコントロールと併せた家庭学習の習慣化を推進する。

②学習指導改善調査に関する直接的な取組

(ア) 学習指導改善調査についての確認

- ・7月初旬に、全職員で、今年度の学習指導改善調査の実施時期や内容、取組方についての確認を行った。

(イ) 事前指導期間の設定

- ・テスト実施日前の1週間を「学習指導改善調査強調週間」として、過去問題を活用した集中的な事前指導を行った。

(ウ) 調査問題を題材にした単元の設定と研究授業の実施

- ・学習指導改善調査強調週間の期間中に、昨年度の国語の調査問題を題材にした単元を6年生で設定した。6年生は昨年度の国語の調査において県平均を下回る結果であった。課題として、「文章やアンケート結果（特に、表）の読み取りが十分にできなかった。文章の読解問題と資料の読み取りを繰り返し指導していく。」と挙げていた。
- ・校内研究の一環として、上記の単元「説得力のある意見文を書こう」（6年生国語）の研究授業を行った。これに伴い、校内研究推進部と高学年部による事前検討会、全職員による授業後の協議会も実施した。

(エ) 採点・入力・分析

- ・夏季休業中に職員研修日を設定し、全職員で、採点・入力・分析作業を行った。

(オ) 重点事項と指導単元の設定

- ・冬期休業中に職員研修日を設定し、全職員で、重点事項と指導単元の設定作業を行った。
- ・作業工程は次の通りである。

①結果と分析の確認

②重点事項と指導単元の設定

- ・県平均と正答率を比較し、ポイント差を＋－で出す。
- ・県比で－10ポイント以上、かつ正答率70%未満の問題を重点事項とする。また、重点事項の多い単元を指導単元とする。
- ・指導単元は、各学年の年間指導計画（コピー）に、赤で「愚」と書き込む。さらに、「愚指導のてびき」「愚指導案」と赤で書き込む。
- ・付箋に重点事項を書き、教科書の該当単元の最初のページに貼る。
- ・4～6年担任は、「指導のてびき」「指導案」を、自学年の指導計画ファイルに綴る。

③②の共通理解

- ・書き込みをした指導計画を各学年に配布する。（指導計画の見直しに生かす。）
- ・ポイント差を書き込んだ用紙を印刷し、全員に配る。

④資料の有効活用

- ・配布された資料を読む。

3 平成26年度学習指導改善調査の結果と分析

①採点結果

	4年		5年		6年	
	赤坂小	県平均	赤坂小	県平均	赤坂小	県平均
国語	80.4	64.5	68.8	67.9	73.5	71.7
算数	61.1	60.8	32.0	52.8	64.1	58.5
理科	80.3	72.9	36.8	46.6	65.5	63.3

②分析（○：成果、●：課題）

4年 国語

- 8名の子どもが正答率100%と学級全体のアベレージはよかった。
- 全体的に読み取り、資料活用、選択はよくできていた。
- 男子4名が全体的に特にできていない。
- どの設問でも整った文章になっていない子どもが多い。

5年 国語

- 文字数、立場を明らかにして記述することができた。段落を4つ作れない児童もいた。
- 本文と資料を関連付けて読み取ることができた。
- 「話し合いの様子」の問題点と解決策の組み合わせを選ぶことができていない。

6年 国語

- 文字数や段落構成を条件に合わせて記述することができた。（100%）
- グラフから推移や数値を読み取り、読み取ったことを適切な言葉で表現する力が弱い。
- 問題文を最後まで読んでいないための誤答、穴埋め問題で本文と重複する内容を書いたための誤答が見られた。

4年 算数

- 全体的に表とグラフの関連問題は、よくできていた。
- 表のグラフ化もよくできている子どもが多かった。

- 「表とグラフ」、「円と球」の設問に戸惑っている子どもが多かった。
- 全体的に問題の理解力が弱い。設問に正対している正答が少なかった。

5年 算数

- 問題と図を正しく結び付けられても、図から式を正しく結び付けられない。(4人)

- 小数のわり算は、小数点の位置が違う児童、小数第1位まで求めるために小数第2位を四捨五入することができていない児童が多い。小数第2位までを答えに書いている。(5人)
- 指定された2つの言葉を使わずに、説明を書いている。(9人)
- 会話から正しい情報を読み取るのが難しい。表を横に見たり、縦に見たりする練習が必要。
- 消去法による説明を求められているが、それに合った解答の仕方ができていない。指定された「もし」を使っていない児童もいる。(6人)

6年 算数

- 基本的な内容はできている。

- 言葉と式で説明する問題では、数直線から定価と代金の差(500円)と割引率が同じであることを読み取り、それを言葉に表すことができない子が大変多かった。(12人)
- 数字カードを選ぶ問題では、「なみさん」「けんさん」の考えに沿って穴埋めをすることができない児童がいた。個人差が目立つ。

4年 理科

- 電気を通すために使う玉と材料の組み合わせがよくできていた。(100%)
- クモと昆虫の体のつくりの違い(昆虫の体の特徴)がよく分かっていた。(92%)

- 電気の回路が繋がらない理由に関して、鉄は「電気を通さない」「金属ではない」という認識が原因の誤答が4人。無答が1人。
- 関係や状態を問われているのに、理由を答える形式で記述している例が多く見られた。
(2)(1)と(3))

5年 理科

- グラウンドの水たまりが乾いてなくなるのは、その水が、水蒸気になって空気中に出るからということが分かっている児童75%

- モーターカーの速さが乾電池1個と2個で違う場合は、直列つなぎにした場合である。しかし、並列つなぎと直列つなぎを反対に覚えている児童が何人かいて、誤答が目立った。
さらに、反対に走るモーターカーにする場合の導線のつなぎ方ができた児童は、1名であった。
- 回路が正しくても、そのようになる理由を、アを参考にして「～なので、～だから」と記載できた児童がほとんどいない。つなぎ方について書いてあっても、電流の強さや電流の向きについてまで理由が及んでいなかった。

6年 理科

○ふりこの実験方法（調べる条件、そろえる条件）についてよく理解していた。（100%）

- 平均を求める問題では、問題文にある「小数第二位を切り捨て、その平均を求める」という内容を読んでいないため、誤答になった児童がいた。（9人）
- 「実や種子のできかた」では、指定された言葉を全て使った正しい説明になっていない（9人）、大事な言葉が抜けている（12人）ことにより誤答になった児童が目立った。
- 実験した内容でなく、ほ乳類の母体内での育ち方など知識をもとに説明する問題に誤答があった。（7人）

4 授業改善の取組の実際

今年度は、国語を中心に校内研究に取り組んできた。以下P5～P12に、第6学年の指導案と考察を示す。

5 成果と課題

①成果

- ・学校生活アンケートで、「勉強が分かる」と答えた子どもは91.7%であった。
- ・音読は、どの学年も毎時間のように位置づけ、方法も目的に合わせて工夫されるようになってきた。
- ・1問1答形式の発問を中心にした、基本的な内容をスモールステップで正しく読み取らせる授業構成を心掛けたことで、向上が見られた学年があった。
- ・家庭学習強調週間において、テレビを消して毎日「学年×10分以上」の家庭学習をしていた子どもは88.9%であった。
- ・2、3学期の強調週間ではメディアコントロールに関する目標を全校で統一した。また、目標チェック用のカードを毎日担任が点検したことで、学期を追うごとに向上が見られた。

②課題

- ・国語の単元テストで、個人の平均点が全国平均点を超えた児童の割合は、71%であった。
- ・まだまだ、言葉を理解する力や文章を正しく読み取る力が弱い。学年による差も、依然として大きい。
- ・教師対子どもの一斉授業になることが多かった。
- ・メディアコントロールを伴った家庭学習の習慣化は、向上してきてはいるものの、課題が多い。生活習慣と併せた指導を継続して行っていく必要がある。
- ・職員研修で、全校体制による学力向上の取組を再検討し、以下の3点を確認した。
 - （ア）特設のスキルアップタイムを週1回確実に設定すること。
 - （イ）毎週水曜日の朝学習（ぐんぐんタイム）は、全校で漢字に取り組むこと。
 - （ウ）連絡帳を書くときに、その日の家庭学習を書かせること。

6 次年度の取組の方向

- ・今年度の研究を継続し、成果を生かしながらさらに発展させていく。
- ・具体的には、児童同士が関わり合う場面を設定することで、自分の読み取りを検証したり、深めたりすることができるような授業改善を試みる。
- ・そのための授業改善の視点を「課題づくり」とする。
- ・校内研究の内容を、重点を置くものとベースになるものに分ける。重点化をすることで、職員の多忙感を解消し、達成感をもちながら校内研究を進められるようにする。
- ・中学校区で取り組んだ、メディアコントロールと関連させた家庭学習の取組を進め、家庭学習の質の向上を目指す。

第6学年国語科学習指導案

平成26年7月11日(金) 2校時
指導者 教諭 小川 晴美

1 単元名「説得力のある意見文を書こう」～地産地消メニューを提案します！～

2 単元の目標

【読】(1)イ、オ

◎ 例文をもとに、説得力のある意見文の書き方(自分の考え、理由や根拠、構成の仕方など)を理解することができる。

【書】(1)ア、エ

○ 「地産地消メニュー」のよさを伝えるために、自分の目的や意図に合った資料を活用して、説得力のある意見文を書くことができる。

3 単元の構想

本単元で付けたい読み取る力は、目的や意図に応じて必要な事柄を、文章や資料から読み取る力である。そのために行う主な指導の手立ては以下の通りである。

- ・導入で、「地産地消メニュー」のよさを伝える説得力のある意見文を書こう。」という、単元を貫く目的意識をもたせる。
- ・例文をもとに、資料と構成メモ、提案を対応させながら読む活動を行い、意見文を書く手順を捉えさせる。
- ・例文を比較して読むことを通して、説得力のある文章の書き方について話し合い、資料を選択する際の観点と資料を活用することのよさを理解させる。
- ・資料を説明する活動、資料にかかわる体験や知識、数字などについて伝え合う活動を通して、資料の読み取りを確かにする。

<UDLの視点から>

- ・単元と1時間の学習内容が分かるように、ねらいと活動の流れを提示する。
- ・思考の流れに沿った視覚的な板書や資料を提示する。

4 指導計画(本時 6/9)

- 第1次 学習計画を立てて意味調べをする・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第2次 田中さんグループの提案、資料、構想メモを読み取る・・・・・・・・2時間
- 第3次 説得力のある意見文の書き方を理解し、資料の選定、構成メモを作る
「結論の位置」「文章構成」・・・・・・・・・・3時間
- 第4次 説得力のある意見文を書き、読み合う・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

5 本時について

(1)ねらい

説得力のある意見文を書くためには、体験や知識、数字などをもとにして自分の考えを書くとよいことが分かり、二つの観点から資料を分類し、選択することができる。

(2)本時の構想

文章構成の確認

導入で、双括型で4段落構成の意見文を書くことを確認し、本時は、「地産地消のよさ」を伝える2・3段落の書き方を考えるという課題を捉えさせる。

二つの文章の比較

根拠が書いてある文章とない文章を読み比べさせ、説得力の違いとその理由を話し合う活動を行う。体験や知識、数字をもとに自分の考えを書くと説得力が出ることに気付かせたい。二つの文章を比較しやすいように、ワークシートを活用する。

文章と資料の結びつけ

文章と資料を結びつけることを通して、資料からどんなことを活用し、自分の考えはどのように書いたのかを捉えさせたい。そのため、全体の話し合いの中で、活用した資料の部分を○で囲ませ、文章と矢印でつないでいくようにする。

資料の分類と選定

文章と資料を対応させることにより、資料には、「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料と「数字をもとに考えを書く」ための資料があることを捉えさせる。その後、各自が持っている七つの資料の読み取りカードを、二つの観点から分類させ、それぞれのグループから自分の考えに合った資料を一つずつ選ぶようにする。

(3) 展開

段階	学習活動	○教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点と評価
導入 5分	本時の課題を捉えさせる。	<p>T1 「地産地消メニュー」のよさを伝える意見文の1段落と4段落を声に出して読みましょう。</p> <p>T2 何が書いてありますか。 C 自分の考え（結論） C 地産地消メニューを提案すること。</p> <p>T3 では、2・3段落の書き出しを予想してみましょう。 C 「よさは二つあります。」と書いてあるから、2段落は「一つ目のよさは」、3段落は「二つ目のよさは」で始まると思います。</p> <p>T4 今日、説得力のある意見文になるように、2段落と3段落の「地産地消のよさ」の書き方を考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体、本時の学習の流れを掲示しておく。 ・4段落構成で書くこと、双括型の文章を書くことを想起させる。 ・書き出しは、1段落の文章を手がかりに予想させる。 ・2・3段落は、地産地消メニューのよさ（理由）が書かれていることを押さえる
展開 35分	二つの文章を読み比べ、説得力のある文章を選び、その理由を話し合う。	<p>T5 2・3段落の例文です。それぞれ二つの文章のうち、どちらが説得力がありますか。また、それはなぜですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で音読をした後で、文章を印刷したワークシートに自分の考えを書くようにする。（個人→班）

説得力のある文章とその理由を発表する。

資料と文章を対応させる。

資料を二つの観点で分類する。

< Aに説得力がある >

C AもBも同じことが書いてあるので、短い方が分かりやすいから。

< Bに説得力がある >

C Aには書いていないよさが書いてあるから。詳しい。

C 体験や知識が書いてあるから。

< Cに説得力がある >

C 二酸化炭素の例を挙げているから

< Dに説得力がある >

C 「例えば」を使って例を挙げているから。

C 具体的な数字を入れているから。

T6 説得力のある文章はどちらか、理由も発表しましょう。

C 2段落は、Bの方が説得力がある。理由は、体験や聞いたこと、思ったことが書いてあるから。

C 3段落は、Dの方が説得力がある。理由は、具体的な数字が書いてあるから。

T7 2段落と3段落では、それぞれの資料のどの部分をもとにして書いたのですか。

< 2段落 >

C 「地産地消のよいところは」「栄養がそこなわれない」「新鮮な農水産物を食べることができる」

C 自分の体験や知識、思ったことを書いている。

< 3段落 >

C 「環境にやさしい」「(表)」

C 数字から考えられることを書いている。

T8 「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料と「数字をもとに考えを書く」ための資料に分類しましょう。

・戸惑っている子には二つの文章の共通部分と異なる部分に着目して考えるように促す。

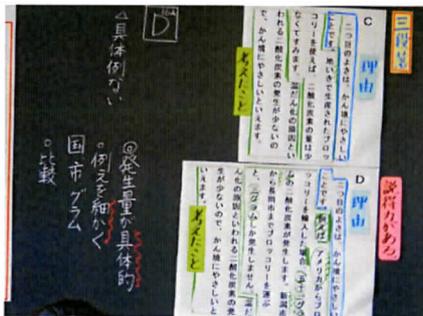
・発表は全体で行う。
・よさ、資料の内容、考えられることをそれぞれ青、緑、赤で色分けをし視覚的に分かりやすいように板書する。
・体験や知識、数字をもとに自分の考え書くと説得力があることを押さえる。
☆話し合いを通して、説得力のある文章を選び、理由を書くことができる。

・資料の部分を囲み、文章と矢印で対応させる。

・「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料と「数字をもとに考えを書く」ための資料があることを伝える。

・7つの資料読み取りカードをワークシート上に二つの観点で分類させる。

	自分の考えに合った資料を選択する。	<p>C (体験や知識) エ、オ、カ (数字) キ、ク、ケ、コ</p> <p>T9 分類した資料の中から、一つずつ自分の考えに合った資料を選びましょう。</p> <p>C (自分の考えや目的にあった資料を選択する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分類した資料の中から、一つずつ選び、選んだ資料の記号を○で囲ませる。 ☆二つの観点で資料を分類し、選択することができる。
まとめ 5分	わかったことをまとめる。	<p>T10 説得力のある意見文を書くとき大事なことは何ですか。また、学習を振り返って分かったことや感想も書きましょう。</p> <p>C 体験、知識、数字をもとに自分の考えを書くと説得力が出る。</p> <p>C 資料にも種類があることが分かった。</p> <p>C 自分の考えに合った資料をしっかりと選ぼうと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「大事なこと」は穴埋め式にし、他は自由記述にする。 ・時間があれば、2～3人に感想を発表させたい。 ・次の時間の予告をする。 ☆体験や知識、数字などをもとに自分の考えを書くと説得力のある文章になることを書いている。



実践の考察 (成果◎ 課題▲)

1. 二つの文章を比較して違いを読み取らせたことは、体験や知識、数字などをもとにして自分の考えを書くと、説得力のある文章になることを理解するために有効であったか。

◎ 二つの文章を比較し、説得力のある文章の選択とその理由を考える活動は、説得力のある文章とはどんな文章なのかについて理解するために有効

導入で、4段落構成の双括文の説得力のある意見文を書くという学習のめあてを確認した。その後、2段落と3段落は「地産地消のよさ」を伝える段落であることも確認した。そのため、より説得力のある文章はどちらかという課題意識をもちながら、2段落と3段落によりふさわしい二つの文章（AとB、CとD）を比較することができたと考ええる。（17名中1名欠席）

2段落	Aを選択した児童	1名	Bを選択した児童	15名
3段落	Cを選択した児童	0名	Dを選択した児童	16名

個別に自分の考えをワークシートに記述した後で、グループ内で意見交流し全体で話し合った。

2段落について、以下のような話し合いが行われた。

- C1 Aを選びました。わけは短い方が分かりやすいからです。
C2 Bを選びました。Aは短いのはいいけれど、もっと詳しく書いた方がいいからです。
C3 ぼくもBを選びました。わけは、体験や母の言葉の引用を書いているからです。
C4 私もBを選びました。実話があって分かりやすいからです。

C1は、「短い」ことで分かりやすいという意見を述べている。C2は、「短いのはいい」とC1の意見を認めながらも、Aには詳しさが足りないことを言っている。続く、C3、C4は、詳しさについて、AにはないBの「体験」「母の言葉の引用」「実話」の記述を具体的に挙げて理由付けをしている。

そこで、全体で、AとBの共通部分と相違部分を確認した。どちらも自分の考えが述べられていることも押さえることができた。

このことから、二つの文章を比較する中で、説得力のあると考える文章には、「体験」「知識」（「引用」「実話」）をもとにして書かれていることを読み取ることができた。しかし、C1は、全体の話し合いの後もAの方が説得力のある文章だという意見をもっていた。子どもたちは「説得力のある文章＝相手に自分の考えを納得してもらえる文章」という共通理解をしている。C1の意見が出たことにより、話し合いが深まったと考える。

C1の「文章の長さ」に着目した意見は、単元後半の書く場面で再度取り上げた。子どもたちは、文章が長いことが詳しいのではなく、言葉や内容を選択・吟味する必要があることに気付くことができた。

3段落についての話し合いでは、全員がDを選択していた。理由として挙げられたのは、「排出量が具体的に書いてあるから。」「Cは具体例が少ない。Dは発生量が書いてあるから。」「Dは細かく書いてあるから。」「Dは、アメリカから輸入したときと新潟市から運ぶときが書いてあるけど、Cは地域でと書いてあるから。」理由付けが「具体的」「細かい」ということに集中した。

このように、二つの文章を比較させたことにより、体験や知識、数字などをもとにして自分の考えを書くと説得力のある文章になると理解させることができたと考える。

▲ 二つの文章比較は、容易な内容から難しい内容へ

「数字をもとにして自分の考えを書いた文章」(C・D比較)の方が、「体験や知識をもとにして自分の考えを書いた文章」(A・B比較)よりも客観的で容易だと考える。今回は、構成メモにある条件付け通りに学習活動を組んだが、2段落と3段落に取り扱う資料を逆にすると理解しやすいと考える。

2. 資料と文章を対応させて読み取ったり、観点を提示したりすることは、目的に合った資料を分類・選択するために有効であったか。

◎ 資料と文章を対応させて読み取る活動は、資料からどんなことを活用して文章化したのかをとらえるために有効

資料と文章を対応させる読み取りは、前時までに田中さんのグループの提案をもとに学習し、その学習内容を掲示しておいた。子どもたちは、掲示を見て既習内容を振り返りながら、資料と文章を対応させていた。資料の中で文章と深くかかわる部分を○で囲み、文章へ矢印を引いていた。この学習活動の中で、子どもたちは、文章と資料を双方向的に何度も読み返しながらか対応させることができた。



◎ 資料を分類するための観点を提示したことは、複数の資料を分類し、目的に合った資料を選択するために有効



「体験や知識をもとに考えを書くための資料」と「数字をもとに考えを書くための資料」があることを提示した。子どもたちは、全員が手元にある七種類の資料を大きく二つに分類することができた。さらに、全員が二つに分類した資料から、それぞれ自分の考えに合った資料を一つずつ選ぶことができた。

このことは、単元を貫く学習のめあてをもっていったことや前時に行った七種類の資料の読み取り活動、本時に行った資料と文章の対応活動を通して、自分の考えをどの資料を活用して伝えたいか、各自がはっきりと意識して資料を選択することができたのだと考える。

3. その他(UDL、中学校区学習3原則など)

◎ 授業の流れや内容が分かる板書は、めあて意識をもって学習するために有効

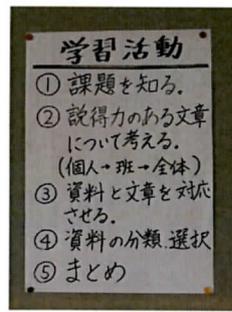
本時の学習の流れと課題を提示したことにより、子どもたちは目的意識をもって学習に取り組むことができた。

黒板全体を意見文と見立てて板書した。右から「ねらい」「1段落」「2段落」「3段落」「4段落」。本時の学習の中心となる2段落、3段落は、資料と文章が対応するようにした。

このように構造的な板書をしたことにより、子どもたちは自分の考えに合った資料を二つの観点から選び、どのように文章化するのかイメージしやすくなったと考える。



<授業終末時の板書>



<学習活動の見通し>



<既習内容の掲示>

◎ 「何を書けばいいの。」から「書きたい。」「書けそう。」へ意識の変容

単元の初め、子どもたちは長い文章を書くことへの戸惑いと抵抗感を抱いていた。しかし、本時までの学習を通して、「何を、どのように書けばよいのか」書き方が分かり、意識に変容が見られた。

本時の終末に、子どもたちは次のような感想を書いていた。(欠席1名は後日指導)

- ・説得力のある意見文を書くには、数字、体験、知識をもとに自分の考えを書くということが分かった。(8)
- ・意見文や説明文を書くときには、数字、体験、知識をもとにして書きたい。(3)
- ・具体例や比較して書くと説得力のある文が書けると思った。(3)
- ・書き方を覚えていて、意見文を書けるようになりたい。(1)
- ・説得力のある意見文は、短くまとめるよりも、数字、体験、知識をもとに考え、具体的に詳しく書くことが重要。(1)
- ・いろいろな手順があって、意見文を書くのは難しそう。(1)



意見文を書き終えた子どもたちは、「どんな風に書いたの。」と互いの意見文を読み合う姿が見られた。

▲ 全体討論のタイミング

グループでの話し合いは必要なかった。なぜなら、選択やその理由付けの場面で戸惑っている子がいなかった。全員が意見を躊躇することなく言えるクラスの実態から考えると、全員が自分の考えをもった段階で、すぐに全体の話し合いに入るとよかった。

学習のまとめ

(名前)

◎ 説得力のある意見文を書くためには、

□ . □ . □

をもとに考えを書くことが大事である。

◎ 分かったことや感想

.....

.....

.....

「資料」読み取りカード

(名前)

エ 栄養士さんのお話

地産地消のよいところは…

- ・ 栄養のそこなわれない新鮮な農水産物を食べることができます。
- ・ 生産者の顔が見え、安心して買うことができます。
- ・ 季節の「旬」を味わうことができます。

① 何の資料か。(「タイトル」や「項目」から)

② どんな内容か。(分かったこと)

③ 資料から考えられること。

「資料」読み取りカード

(名前)

ク 環境にやさしい地産地消

外国で生産された食料を日本に運ぶ場合、生産地が遠いほど輸送距離も長くなります。すると、船や飛行機、トラック等によって排出される二酸化炭素が多くなり、地球温暖化の原因の一つになります。

二酸化炭素は地球温暖化の原因になると考えられています。
 <プロットコリー1個(250g)を例とします>

輸送先→輸送先	距離(km)	二酸化炭素の量(g)
アメリカ→日本	8579	51
空村菜→東京都	198	13
新潟市→長岡市	80	5



資料出典：農林水産省「地産地消推進事業」

① 何の資料か。(「タイトル」や「項目」から)

② どんな内容か。(分かったこと)

③ 資料から考えられること。

説得力のある文章はどちらでしょう

(名前)

二段落 問一

AとBの文章を読み比べましょう。説得力があるのはどちらですか。説得力のある方を選び、選んだ理由を書きましょう。

A

一つ目のよさは、栄養がそこなわれないということです。地いきで生産された食べ物を使うと栄養がそこなわれず、新鮮なまま食べることができま

B

一つ目のよさは、栄養がそこなわれないということです。わたしは、家で作ったばかりの野菜を使ってサラダを作ったことがあります。母は、栄養満点だと言っていました。わたしはその通りだと思いました。地いきで生産された食べ物を使うと栄養がそこなわれず、新鮮なまま食べることができま

理由は、

三段落 問二

CとDの文章を読み比べましょう。説得力があるのはどちらですか。説得力のある方を選び、選んだ理由を書きましょう。

C

一つ目のよさは、かん境にやさしいことです。地いきで生産されたプロットコリーを使えば、二酸化炭素の量は少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。

D

一つ目のよさは、かん境にやさしいことです。例えば、アメリカからプロットコリーを輸入した場合、五十一グラムの二酸化炭素が発生します。新潟市から長岡市までプロットコリーを運ぶと、三グラムしか発生しません。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。過剰な二酸化炭素の発生が少なくて済みます。

理由は、

理由は、